

ネットワークグループによる地域母子保健活動報告

山崎真紀子¹・野間田真紀子²・片山 清美³・中尾 優子¹

要 旨 ネットワークグループ長崎Cキューブの7年間の地域母子保健活動を振り返った。主な活動内容は、母子保健・助産に携わる人たちへ向けた勉強会・セミナーや地域の母子およびその周囲の人々へ向けた各種クラス等（両親学級、育児学級等）のイベントの開催、月2回の定例会とイベント前の臨時例会、会員へ年に4回のミニレター発行などであった。開催した各種イベントは参加者や主催者ともに満足度や評価が高かった。今後の課題として①女性のライフステージ全般へのアプローチとサポートという視点で振り返ると、幼児期、思春期、更年期などは取り上げていないので今後活動に入れていく必要がある、②専門職としての活動の活性化は図れているが、地域に根ざしたネットワーク活動を行っていくには、お母さんグループ等の地域で活動しているネットワークグループと交流をもち地域のニーズを把握していく必要がある、③イベント後にとっているアンケート内容の検討を行い、評価方法を再考する、④マンパワーの確保と強化があった。

長崎大学医学部保健学科紀要 16(2): 83-86, 2003

Key Words : ネットワーク, 長崎Cキューブ

はじめに

長崎Cキューブは職種、職域を越えたネットワーク活動で母子を支援しようとする、母子にかかわる専門職のグループである。Cキューブというネーミングには3つのC、つまり、Conception/Childbirth/Childcareを立体的にとらえ、自由な雰囲気のもと母子支援活動の活性化を図ろうという願いが込められている。1996年に母子保健・助産に関心のある専門職を中心にしてメンバー9名で結成された。現在は会員33名となり、幅広い職域で活動している。これまで、事務局を中心に月2回の定例会と年1回のセミナー、不定期に両親学級や、勉強会を行ってきた。その様子を1999年12月の助産婦雑誌に活動状況を報告し¹⁾、今後の展望について①母子およびその周囲の人々のサポートの持続と強化、②他のネットワークグループとの交流、③職種、職域をこえた活動の展開、④知識、技術の向上と述べた。さらにそれから4年が経過した。結成7年目をむかえたのを機に、これまでの活動を総括し、再度今後の活動の方向性について検討を加えることとした。

1. 長崎Cキューブの概要

(1) 結成当時の活動目的

- ①妊婦、産後の母親・児に限らず、父親、周囲の援助者も含めて困ったとき、悩んだときいつでも相談対処できる駆け込み寺的存在として支援していく。
- ②既成の概念にとらわれないことのない知識、技術の向

上を図る。

③職場、職域をこえた仲間づくり。

④地域の妊婦、母親、父親、また女性のライフステージ全般へのアプローチとサポート

(2) 会員の構成と推移

結成当時9名でスタートしたが、イベントや勉強会などさまざまな機会を通して会員募集を行なってきた。2000年には会員数37名となり、以後転勤等で多少の増減があり、現在33名となっている。職種別では助産師30人、保健師2人、看護師1人である。職域別内訳は表1に示すように地域で働く開業助産師、教育に携わる学校関係者、産婦人科病棟や小児科外来等病院に勤務するもの、役所に勤務するもの、新生児訪問を主に行う在宅助産師等幅広い職域のメンバーで構成されている。

表1. 職域別人数

職域	人数
開業助産師	2
学校関係	6
産婦人科病棟勤務	19
小児科外来勤務	1
保健所勤務	1
役所勤務	2
在宅助産師	2

1 長崎大学医学部保健学科

2 開業助産師

3 日本赤十字社長崎原爆病院

2. おもな活動内容

おもな活動の内容として、①母子保健・助産に携わる人たちへ向けた勉強会・セミナーや地域の母子およびその周囲の人々へ向けた各種クラス等のイベントの開催、②月2回の定例会とイベント前の臨時例会、③会員へ年に4回のミニレター発行、④次年度の計画は前年に会員にアンケート調査を行い活動内容決定、⑤長崎県助産師会との連携、⑥他県のネットワークグループとの情報交換などである。これまで行なってきた活動内容を前述の助産婦雑誌で述べた今後の展望の4つの視点から総括する。開催したイベントは表2に年別活動内容として示す。

表2. 年別活動内容

年月	活動内容
1997年3月	第1回セミナー「春風に乘せてNew Wave In ながさき」 ・真の助産婦を求めて「指導者」から「ドゥーラ」へ ・アクティブベース・リラクゼーション・ホームベース
1997年7月	アロマテラピー勉強会
1997年9月	ふれあい両親学級 ・胎児体感・妊娠期の過ごし方・妊娠期の性生活 ・リラクゼーション
1998年3月	第2回セミナー「春の息吹を感じて鼓動聞こえますか ～小さい鼓動 大きい鼓動～」 ・講演:「世界のお産事情」・実技:マタニティーヨーガ ・講演:「日本と韓国の子産み子育て—伝承と変容—」
1998年5月	ふれあい育児学級
1998年9月	ベビーマッサージとダイオキシン勉強会
1999年2月	「Midwifery Today」助産婦国際会議参加報告会
1999年5月	第3回セミナー「萌えいずる若葉のように私から!!」 ～世界のお産を知ろう。今を見つめ直そう～ ・講演:「世界のお産事情」・講演:「私たちが病院をどう変えたか」 ・分科会:ヒーリング、フリースタイル出産、アロマテラピー、ベビーマッサージ
1999年7月	自然食についての勉強会
1999年9月	ほんわかマタニティークラス～おばあちゃんと一緒～
1999年11月	「お産の話」お母さんグループとの交流会
2000年2月	講演会:「国際看護～母子看護からみる国際貢献について～」
2000年5月	ほんわか育児学級
2000年7月	第4回セミナー A POSITIVE MYSELF イギリス産科Dr ドナルド・ギブを迎えて 「イギリスからのメッセージ:21世紀のお産を考えるMwと産科医のコラボレーション」 ・助産婦に伝えたいこと—施設の中で共に働く価値観を見直す」 ・イギリスの助産婦活動に学ぶもの—NHSとはなんでしょう? 大学病院でのオープンシステム 男性助産師の存在
2000年7月	愛知県岡崎市 吉村医院見学ツアー ・総務づくりお産の家とふる屋見学・吉村医院院長 吉村正先生との懇談
2001年3月	ニンプクラス ・疑似分娩、リラクゼーション、赤ちゃんへのメッセージ
2001年9月	第5回セミナー「お産のヒューマニゼーション・長崎からのメッセージ」 ・講演:「ファインダーからのぞいたお産のヒューマニゼーション」 ・ディスカッション:「お話ししましょう!産む人の気持ち、見守る人の気持ち」 長崎のヒューマニゼーションって?
2002年12月	助産の中での食育を考える～こころ・からだ・社会を育む“食”～ 1部:講義 助産婦だから食育を! 2部:調理実習
2003年7月	お産のつば勉強会
2003年10月	フィーリング・ハーモニー ～赤ちゃんと一緒にのコンサート～

(1) 母子およびその周囲の人々のサポートの持続と強化

この目的に合致するイベントとしては、「ふれあい両親学級」(1997. 9, 8組16名参加),「ふれあい育児学級」(1998. 5, 7組20名参加),「ほんわかマタニティークラス」(1999. 9, 10名参加),「ほんわか育児学級」(2000. 5, 6組15名参加),「ニンプクラス」(2001. 3, 9名参加),「フィーリング・ハーモニー 赤ちゃんと一緒にのコンサート」(2003. 10)を行った。対象は母親だけでなく、父親、祖母、赤ちゃんと一緒に等、幅広い対象に関わることができている。産前のマタニティークラスの参加者を対象に希望者へは新生児訪問を行い、産後ク

ラスとしては育児学級を開催し継続的なサポートを行った。産前のクラスの内容は妊娠分娩期の過ごし方、妊娠中の性生活、母乳、胎児体感、呼吸法、アロマテラピー、リラクゼーション、グループディスカッションなどであった。産後のクラスの内容は育児、母乳、ベビーマッサージ、フリートークなどであった。ともに幅広い内容を提供できたのではないかと考える。実施にあたっては講義のみでなく、実技を取り入れた演習やディスカッションを行い、参加者が主体的に学ぶことのできる場としてきた。また、主催者側も参加者との関わりを通して多くの学びを得た。忌憚のない意見や感想を聞かせていただくことで、対象者の細かいニーズがわかり、日々の関わりを振り返る場となり臨床へのフィードバックにつなげることができた。参加者からは「受講する人数に対しての助産師の人数が多くとても安心感がもてたし、質問もしやすい雰囲気よかった」、「通常解らなかったことが勉強できた」、「病院の母親学級では学べないこともこの両親学級で学ぶことができた」、「妊娠生活を積極的に楽しく過ごすのに役立った」などの感想が聞かれた。今後も対象への継続した関わりと対象者の意見を反映した内容のクラスを開催して行きたい。また女性のライフステージ全般へのアプローチとサポートという視点で振り返ると、幼児期、思春期、更年期などは取り上げていないので今後活動に入れていく必要がある。

(2) 他のネットワークグループとの交流など

イベントとしてはお母さんグループとの交流会(1999. 11)を行った。また、本会と同様の目的をもつネットワークグループであるフムフムネットワーク(福岡)やベアーズ大分との情報交換を行っている。そのようなネットワークを通して共同で講師を招聘、講師依頼、各地域での助産師活動やトピックスの報告などを行い、互いの活動を活性化している。専門職としての活動の活性化は図れているが、地域に根ざしたネットワーク活動を行っていくには、お母さんグループ等の地域で活動しているネットワークグループと交流をもち地域のニーズを把握していく必要がある。

(3) 職種、職域をこえた活動の展開

年に4回のミニレターの発行を行っている。内容は、イベントの案内、活動の報告、他のネットワークグループからの情報の紹介、メンバーの近況などである。また、月2回の定例会では、幅広い職域の人が集り、色々な視点からディスカッションできることがお互いの視野や発想を広げられることにつながっている。

(4) 知識、技術の向上

この目的に合致するイベントとしては、第1回から第5回のセミナー、各種勉強会、施設見学等があげられる。

内容は助産師としてのあり方を考えるもの、国際的視野を養うもの、多様な分娩法、ベビーマッサージ、アロマテラピー、食事に関するもの等であった。セミナーは年1回開催し、内容はその時々で話題性のあるものを取り上げ、講演、実技、ディスカッション、分科会などの形式で多岐にわたる内容で関係者へ学習および交流の場を提供してきた。講師は施設勤務の助産師、開業助産師、マタニティーコーディネーター、産科医、大学教官、アロマテラピストなどで様々な分野から招き、遠くはロンドン、東京から講師を招いたこともある。参加者は母子看護や助産に従事する者がほとんどで、県内だけでなく、福岡、大分、鹿児島からも参加があった。このような機会を通して、自分の職域にどのように活用できるかを考え、従来の方法にプラスαのケアを加えるきっかけとなった。イベント終了後はアンケート調査を行ってきたが、毎回参加者の満足度は高く、セミナー参加者の自由記載の欄では、「皆の目指す方向が同じで、また皆のパワーを感じ取れて、やる気が溢れてきた。」「とても楽しい研修だった。目的が一緒の仲間がいるので、お互い励まし合って頑張っていきたい」「このセミナーに参加してとても焦りました。勉強不足を思い知らされました。今の病院に不満を抱いているだけではだめなんですね。これから少しでも病院を変えていけるよう頑張りたいです」などの感想が聞かれた。

3. イベントの紹介

「フィーリング・ハーモニー 赤ちゃんと一緒にのコンサート」についてその概要と参加者の反応を紹介する。「親子で参加できリラックスできる場が欲しい」というお母さん方からの声がありコンサートを企画した。2003年10月4日長崎市ブリックホール国際会議場にて長崎県助産師会協賛のもと「フィーリング・ハーモニー〜赤ちゃんと一緒にのコンサート〜」と題して福岡県秋月からピアニスト今井てつ氏を迎えコンサートを開催した。広報の方法はラジオ、長崎新聞、朝日新聞での案内、Cキューブ会員や助産師会会員へはポスターを郵送、長崎市内の保育園5ヶ所とスーパーマーケット4ヶ所と保健センターにポスターを掲示した。コンサートは2部構成で行い、1部が妊婦さんや一般の方対象、2部が赤ちゃんと一緒にのコンサートとした。300人収容のホールに椅子150席を用意し、また、絨毯張りの床の上に敷物を敷き自由にくつろげるようにした。また授乳コーナーも設置した。一部は10名の参加者でとても静かでところが癒された。2部は110名の大人と100名余りの赤ちゃんを含めた子どもたちの参加があった。参加者にたいするアンケート結果の概要を以下に示す。

参加者：大人114名、子ども約100名

アンケート配布数：94枚

(夫婦で参加の方には1枚配布)

アンケート回収数：85枚(回収率90%)

アンケート結果：

1) コンサートに関すること

①コンサートは何で知ったか。

ポスター 5名 知人から 46名 長崎新聞 7名
朝日新聞 6名 その他 23

②コンサート参加のきっかけ

子どもと参加できるから 49名(58%)
興味があった 24名(28%)
妊娠中の胎教 6名(7%)
知人に勧められて 6名(7%)
その他 3名
複数回答あり(3)

③コンサートの雰囲気

よかった 53名(62%)
まあまあよかった 19名(22%)
ふつう 9名(11%)
やや悪い 1名(1%)
無回答 3名

④コンサートの内容

よかった 45名(53%)
まあまあよかった 19名(22%)
ふつう 10名(12%)
悪い 1名(1%)

2) アンケート用紙にCキューブの活動の紹介を「私たち長崎Cキューブは母子に関する専門職のグループです。両親学級・育児学級開催による育児支援や勉強会・セミナー開催による関係者の学習および交流を行なっています。」と掲載した。また日頃のCキューブ活動に継続して参加している人たちも来ることが予測されたので、Cキューブに望むことについても自由記載を求めた。その内容は、今後も親子で参加できる企画をして欲しい 9名、勉強会、講演会、情報交換の場をもって欲しい 6名、またこのようなコンサートを開いて欲しい 9名であった。

おわりに

7年間で行ってきた様々なイベントは参加者の評価や満足度は高かった。また社会的な評価としてエイボン女性文化センターから贈られる「1999年エイボングループサポート」に全国178グループの上位20グループに選ばれ助成金をいただいた。主催者側としては、イベントを重ねるにつれ、企画運営が効率よくできるようにもなった。今までの活動の原動力となっていたのは、活動の楽しさや充実感である。今後は今までの活動にプラスして幼児期、思春期、更年期の分野も視野に入れて地域のニーズを反映した企画を計画し、さらに有意義な活動にしたい。そのためには地域のニーズを知ること、イベント後にとっているアンケート内容の検討を行い、評価方法を再考する、またマンパワーの確保と強化が課題となる。

引用文献

- 1) 野間田真紀子, 中尾優子, 山崎真紀子, 片山清美,
大町いずみ, 山口由香里, 土橋美穂, 平山市子, 金
澤知恵: 前向きな助産婦が集りました. 「長崎Cキュー
ブ」物語. 助産婦雑誌, 53(12): 72-75, 1999